

Asia Indicators

発表日: 2021年1月8日(金)

シンガポールの2020年の経済成長率は▲5.8%(Asia Weekly(1/4~1/8))

~豪州では内需の堅調さを反映して月次ベースの輸入額は過去最高を更新~

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
1/4(月)	(シンガポール)10-12月実質GDP(前年比・速報値)	▲3.8%	▲4.5%	▲5.6%
	(中国)12月財新製造業PMI	53.0	54.8	54.9
	(インドネシア)12月消費者物価(前年比)	+1.68%	+1.61%	+1.59%
	(香港)11月小売売上高(前年比・数量ベース)	▲4.7%	--	▲9.3%
1/5(火)	(タイ)12月消費者物価(前年比)	▲0.27%	▲0.40%	▲0.41%
	(シンガポール)11月小売売上高(前年比)	▲1.9%	--	▲8.5%
1/7(木)	(豪州)11月輸出(前月比・季調済)	+3.5%	--	+4.4%
	11月輸入(前年比・季調済)	+9.7%	--	+2.0%
	(台湾)12月消費者物価(前年比)	+0.06%	+0.15%	+0.09%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

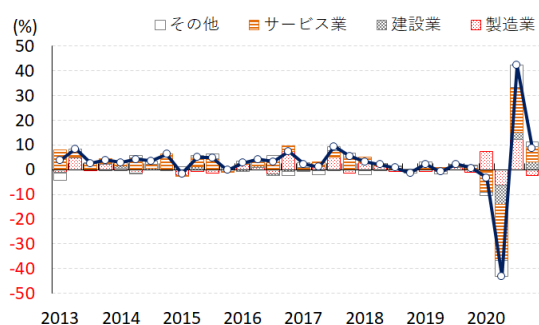
[シンガポール]~昨年の経済成長率は▲5.8%と19年ぶりのマイナスも、足下では底入れの動きがうかがえる~

4日に発表された昨年10-12月の実質GDP成長率(速報値)は前年同期比▲3.8%と4四半期連続のマイナス成長となったものの、前期(同▲5.6%)からマイナス幅は縮小した。前期比年率ベースでは+8.7%と前期(同+42.3%)から2四半期連続のプラス成長で推移しており、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)のパンデミック(世界的大流行)の影響を受ける形で大きく下押し圧力が掛かった景気の底入れが進んでいる様子が見えてくるものの、依然として新型コロナウイルスの影響がくすぶる状況は変わっていない。分野別では、前期に大幅に生産が拡大した製造業で一服感が出ており、電子部品関連やバイオ・医薬品関連で堅調な生産が続く一方、輸送用機械関連や一般機械関連での生産鈍化の動きが全体の下押し圧力に繋がった。その一方、公共投資の進捗や設備投資需要の回復などを反映して建設業の生産は拡大傾向が続いているほか、貿易関連サービスや観光関連産業で低迷が続く一方、経済活動の再開などを反映してIT関連サービスのほか、金融関連などで生産拡大の動きがみられた結果、サービス業全体の生産も押し上げられた。結果、2020年通年の経済成長率は▲5.8%と2001年(▲1.1%)以来となるマイナス成長に留まっている。

5日に発表された11月の小売売上高は前年同月比▲1.9%と22ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月(同▲8.5%)からマイナス幅は縮小した。前月比も+7.34%と前月(同+0.22%)から2ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向を強めており、新型コロナウイルスの感染収束を受けた経済活動の再開を反映して底入れが進んでいる。なお、同国では月ごとの自動車販売の動向が

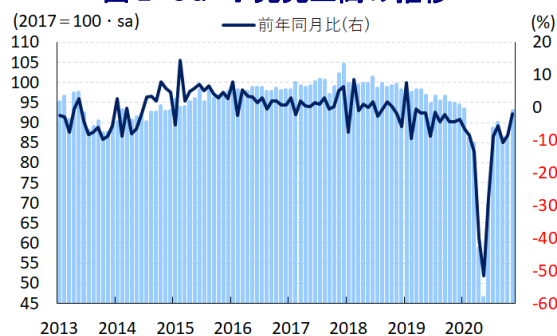
小売売上全体を左右する傾向があるなか、当月は前月比▲5.23%と前月（同+0.83%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど足を引っ張る要因となっている。結果、自動車を除いたベースでは前月比+9.78%と前月（同+0.10%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れが進んでいる様子が見えてくる。食料品やエネルギーなど生活必需品に対する需要が底堅く推移している上、衣料品などの日用品も堅調なほか、家具をはじめとする耐久消費財や宝飾品などの高額消費にも底入れの動きが出ており、経済活動の正常化を受けたペンタアップ・デマンドの発現も小売売上全体の押し上げに繋がっている。

図1 SG 実質 GDP 成長率(前期比年率)の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 SG 小売売上高の推移

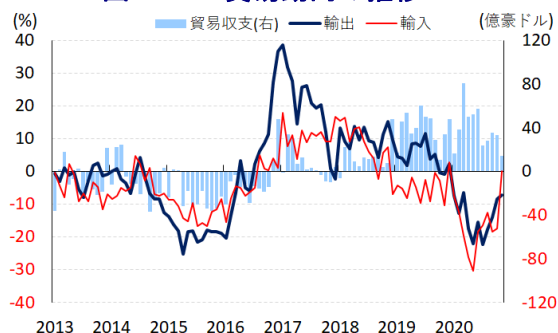


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[豪州]～中国の「嫌がらせ」にも拘らず輸出は底堅い上、経済活動の再開を受けて輸入は過去最高を更新～

7日に発表された昨年11月の輸出額（季節調整値）は前月比+3.5%となり、前月（同+4.4%）から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れが進んでいる様子が見えてくる。関係悪化を受けた同国産品に対する事実上の輸入規制強化の動きを反映して中国向けは鈍化している一方、経済活動の再開などを反映して隣国ニュージーランド向けの底入れが進んでいるほか、ASEAN（東南アジア諸国連合）をはじめとするアジア新興国向けも堅調に推移している上、日本や米国、EUといった先進国向けも底堅い動きが続くなど、世界経済の回復期待を反映した動きが続いている。一方の輸入額は前月比+9.7%と前月（同+2.0%）から2ヶ月連続で拡大しており、原油をはじめとする国際商品市況の底入れの動きに加え、経済活動の再開を受けた内需拡大を反映して幅広い財で輸入が押し上げられており、月次ベースの輸入額は過去最高となった。結果、貿易収支は+13.88億豪ドルと前月（+33.30億豪ドル）から黒字幅が縮小している。

図3 AU 貿易動向の推移

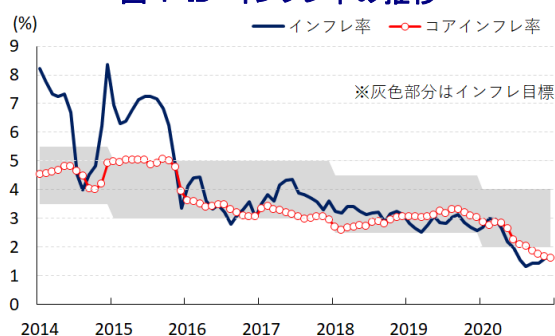


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[インドネシア]～新型コロナウイルスの影響がくすぶり、インフレ率、コアインフレ率ともに目標を下回る推移が続く～

4日に発表された昨年12月の消費者物価は前年同月比+1.68%となり、前月（同+1.59%）から伸びが加速したものの、引き続き中銀の定めるインフレ目標（ $3 \pm 1\%$ ）の範囲を下回る推移が続いている。前月比も+0.45%と前月（同+0.28%）から上昇ペースが加速しており、国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格が上昇しているほか、生鮮品を中心とする食料品価格も上昇傾向を強めるなど、生活必需品の物価上昇圧力が高まったことが影響している。一方、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.60%と前月（同+1.67%）から伸びが一段と鈍化しており、前月比も+0.05%と前月（同+0.06%）からわずかながら上昇ペースが鈍化するなど、インフレ圧力が後退している。新型コロナウイルスのパンデミックによる実体経済への悪影響がくすぶるなかで幅広く財物価の上昇圧力が抑えられる展開が続いている上、サービス物価に下押し圧力が掛かるなどインフレ圧力が高まりにくい状況が続いている。

図4 ID インフレ率の推移

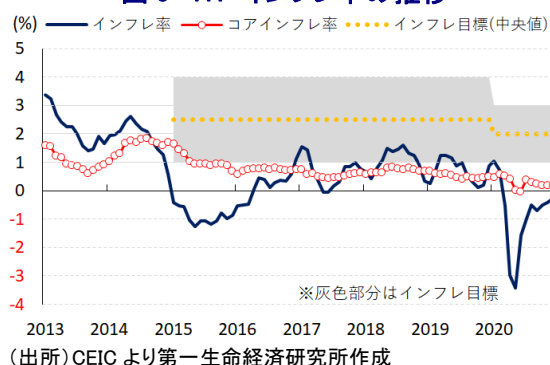


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[タイ]～インフレ率は10ヶ月連続のマイナスで推移、当面は感染再拡大による悪影響が懸念される展開に～

5日に発表された昨年12月の消費者物価は前年同月比▲0.27%と10ヶ月連続のマイナスとなったものの、前月（同▲0.41%）からマイナス幅は縮小した。前月比も+0.15%と前月（同▲0.04%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、生鮮品を中心とする食料品価格は下落傾向が続いている一方、国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格は大幅に上昇するなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.19%となり、前月（同+0.18%）からわずかに伸びが加速しているものの、中銀が定めるインフレ目標（ $2 \pm 1\%$ ）の下限を下回る推移が続いている。前月比も+0.05%と前月（同+0.01%）からわずかに上昇ペースが加速しているものの、エネルギー価格の上昇にも拘らず幅広く財価格は落ち着いた推移が続いていることに加え、サービス物価も鈍化傾向が続くなどインフレ圧力が高まりにくい展開となっている。足下では新型コロナウイルスの感染が再拡大しており、経済活動の自粛を呼び掛ける動きが広がる事態となっており、当面はデフインフレ基調が一段と強まることも予想される。

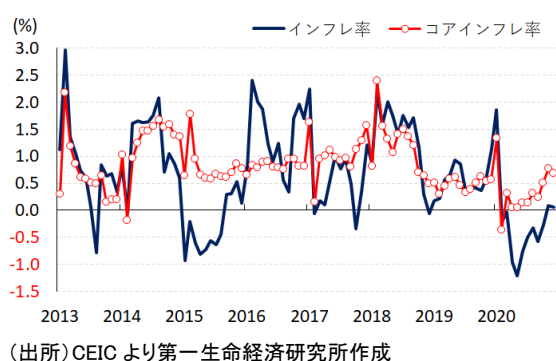
図5 TH インフレ率の推移



【台湾】～外需の底入れや経済活動の正常化が進んでいるが、デysinフレ圧力は収まらない展開が続く～

7日に発表された昨年12月の消費者物価は前年同月比+0.06%となり、前月(同+0.09%)から伸びが鈍化した。前月比は+0.03%と前月(同▲0.06%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じているものの、わずかな上昇に留まっており、生鮮品を中心とする食料品のほか、国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格も上昇するなど、生活必需品の物価上昇圧力が強まっていることが影響している。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+0.69%と前月(同+0.78%)から伸びが鈍化しており、前月比も▲0.07%と前月(同+0.01%)から3ヶ月ぶりの下落に転じており、インフレ圧力が一段と後退している。外需を中心に景気の底入れが進んでいる上、新型コロナウイルスの感染収束を受けて経済活動の正常化が図られているほか、エネルギー価格の上昇を背景とする輸送コストの上振れにも拘らず幅広く財価格に下押し圧力が掛かっており、サービス物価も鈍化傾向を強めるなど、全般的にデysinフレ基調が強まっている様子が見えてくる。

図6 TW インフレ率の推移

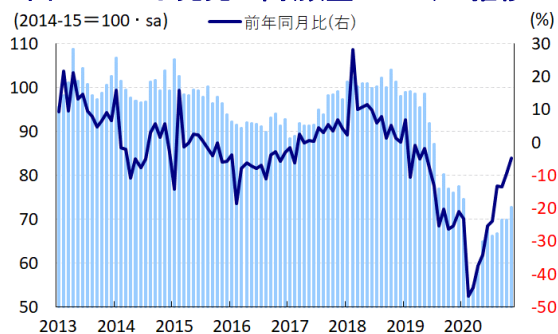


【香港】～経済活動の再開を受けて、自動車や家具など耐久消費財に対する需要の底入れが進んでいる～

4日に発表された昨年11月の小売売上高(数量ベース)は前年同月比▲4.7%と22ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月(同▲9.3%)からマイナス幅は縮小した。前月比も+4.15%と前月(同+0.14%)から4ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど、新型コロナウイルスのパンデミックの影響により大きく下押し圧力が掛かった家計消費は、感染収束を受けた経済活動の再開を反映して底入れが進んでいる。食料品やエネルギーなど生活必需品に対する需要は弱含んでいるほか、経済活動の再開を受けたpent-up・デimandの発現を受けて押し上げられてきた宝

飾品など高額消費にも一服感が出ている一方、自動車や家具といった耐久消費財に対する需要の堅調さが小売売上全体を押し上げる動きがみられるなど、経済活動が徐々に正常化に向かっている様子が見えてくる。

図7 HK 小売売上高(数量ベース)の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。